

2009. 6月号

都市みらい通信 IFUD LETTER

Institute for Future Urban Development



【目次】

・第4回 まち交大賞 計画大賞（国土交通大臣賞）の表彰	P 1
・合同講演会の開催	P 2
・都市地下空間活用研究会：受託研究報告会の開催	P 3
・アーバンインフラ・テクノロジー推進会議（UIT）講演会開催『2030年の東京』	P 4
・会員紹介：株式会社オリエンタルコンサルタンツ（ACKグループ）	P 5
・機構の活動状況	P 6

§ 第4回 まち交大賞 計画大賞（国土交通大臣賞）の表彰

去る6月1日、ニッショーホールにおいてまちづくり月間中央行事の国土交通大臣表彰等表彰式が開催され、金子一義国土交通大臣から、今回の計画大賞を受賞した「熊本市都心部地区（熊本県熊本市）」を代表し、幸山政史熊本市長に賞状の授与が行なわれました。



国土交通大臣賞 表彰式（6月1日）
左：金子 一義 国土交通大臣
右：幸山 政史 熊本市長



計画大賞を受賞した「熊本市都心部地区」の概要を顕したパネル

創意工夫大賞及びその他の賞については、まちづくり交付金情報交流協議会定期総会（7月17日開催）と同日に表彰式を開催する予定となっています。

<熊本市都心部地区>

計画の特徴

熊本城の歴史文化に触れる機会の創出、中心商店街の活性化、安全で安心な暮らしやすい居住空間の創出という3本柱を組み合わせ、まちづくりに取り組む点が特徴。

評価のポイント

- ・熊本城を中心市街地活性化に活用しようとする視点が評価できる。
- ・熊本城が全国の城の中で入場者数が一位になった実績がある。
- ・観光客だけでなく地域住民にも配慮し、きめ細やかに取り組んでいる。



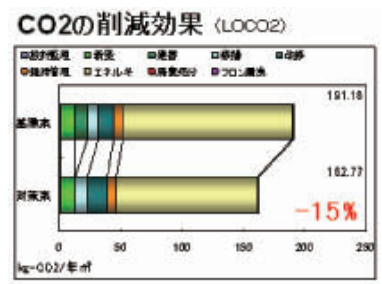
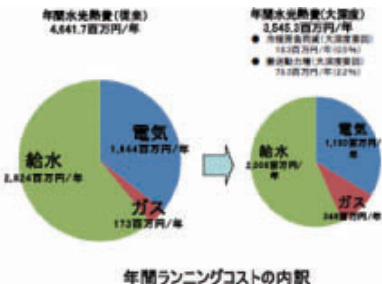
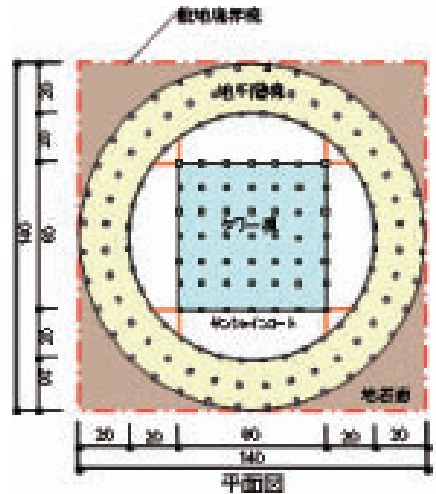
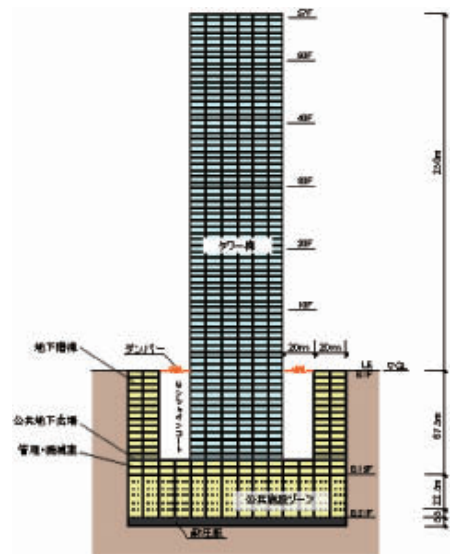
§ 都市地下空間活用研究会：受託研究報告会の開催

去る6月10日に、受託研究報告会を地下研第22回総会の後に、アルカディア市ヶ谷において開催いたしました。

今回の研究は、大深度地下の可能性を探るべく、モデルケースの検討及び可能性並びにコストダウン方策の検討を行うため、大深度地下利用に関してワーキンググループを設置し、伊藤滋地下研会長（早稲田大学特命教授）にもご参加いただき、小早川洋太郎委員を主査として、8ヶ月に及ぶ研究活動を経て、成果を得ることができました。

報告会は小早川主査自らプロジェクターを用いて、大深度法が成立して既に8年を経過するも未だ建築界に見るべき成果物の存在がないため、『深くなっても快適な建築空間を保持し、大深度になればなるほど建築コストは安くなり、耐震性も増す。そして、所有権の及ぶ建築ゾーンと公共施設ゾーンが共存できるような機能性の高い大深度地下室を構築すること』を目的にスタートしたこと、学識経験者へのヒアリング・先進事例や文献調査等の経緯説明からスタートしました。

検討モデルの特徴や計画地の地盤概要、土水圧の設定、湧水量の算定、浮力に対する検討、構造計画、円形連続地下壁の効用、超高層ビルの検討、制震ダンパーの効果、自然・未利用エネルギーの活用、などの検討項目の説明。そして、成果である、大深度建築と地上建築の環境性能・ランニングコストとイニシャルコスト・エネルギー使用量・CO₂削減効果等の比較、防災計画、揚水による揚圧力（浮力）0工法、鉄量・鉄筋量・コンクリート量の削減、建築費の削減などについて、限られた時間のなか、報告書ダイジェスト版によりご説明いただきました。





§ アーバンインフラ・テクノロジー推進会議（UIT）講演会開催『2030年の東京』

アーバンインフラ・テクノロジー推進会議（UIT）では、去る6月2日に評議員会及び総会を開催し、その後に第1回定例講演会を開催しました。

今回のテーマは『2030年の東京』と題し、当推進会議の会長である伊藤滋早稲田大学特命教授にご講演をいただきました。

アルカディア市ヶ谷で開催した講演会では、狭い会場にもかかわらず約90名のご参加をいただき、盛況に実施することができました。

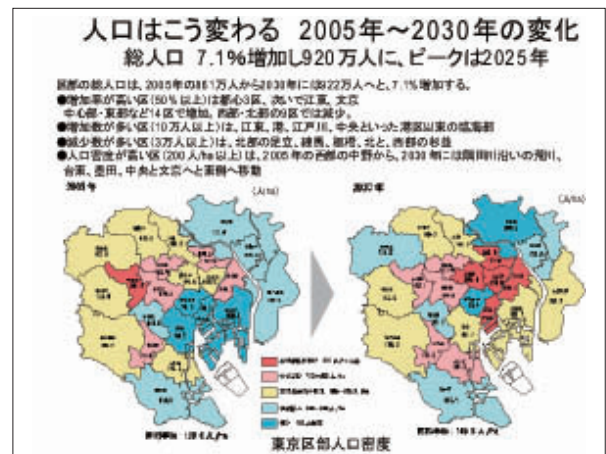
講演は、中国等の台頭により「東京」の世界における位置付けがよろめき始めており、独自のキャラクターを見出し世界中の関心を集める必要がある、東京の生き死には日本の生き死に直結する、というお話で始まり、東京の総人口は2005年と比較して2030年には7.1%増加、その他に子供・高齢者・外国人・生産年齢人口や、用途別建物面積・床面積・容積率・建物階数、居住者1人当り住宅床面積、従業者数などの2030年時点の予測などについて、23区毎の予測も交え、山手・下町など区毎の特殊性なども詳しくお話しいただきました。



また、世界と比較した外国人人口割合・1人当りGDP、大規模開発と中小規模開発との関係も紹介され、2020年代で常識的な都市整備は終わる、都市拡張は2030年で終わる、2030年以降は成長よりも質を高めることが主流となり、それに見合った対応が必要となるなど、貴重なご説明もいただきました。

当日使用した資料は、森記念財団で購入することができます。

当日は全国から数多くのご参加をいただきました。お忙しいなか、ご参加いただいた皆様に御礼申し上げます。





§ 会員紹介：株式会社オリエンタルコンサルタンツ（ACK グループ） まちづくりを応援します。

私たちの暮らしの舞台：「都市」。文明と同様、数千年の長い歴史を持ち、人類最大の発明物といえるのが都市です。生活を支えるさまざまなインフラも、都市に集中しています。

その都市が現在、複雑で難しい問題を抱えています。交通事故や渋滞、環境問題、街なかの空洞化、景観の乱れ、歴史的街並みの喪失、地震や水害などのリスク、犯罪

私たちは、国のさまざまな調査、自治体の都市計画、民間都市開発プロジェクトの豊富なノウハウを活かし、ACKグループの総合力を結集して、まちづくりのお手伝いをいたします。

<p>●歴史まちづくり</p> <p>地域の古い建造物や街並み、風景を守ることで、観光の活性化、空洞化した街なかの再生を実現し、個性あるまちづくりを支援します。</p> 	<p>●公園緑地、ランドスケープ</p> <p>調査から計画・設計、管理、事業評価など幅広い範囲で市民に愛される公園緑地づくりを支援します。</p> 
<p>●中心市街地活性化、エリアマネジメント</p> <p>中心市街地活性化に向けた地域主体のまちづくりやエリアマネジメント等の活動を支援します。</p> 	<p>●低炭素型まちづくり</p> <p>土地利用の見直しや、モビリティマネジメント、緑化、省エネルギー支援など“点”の視点から、“面”の視点まで幅広い視点に立ち低炭素型のまちづくりを支援します。</p> 

お問い合わせは：(株)オリエンタルコンサルタンツ 都市景観グループ TEL：03-6311-7857
<http://www.oriconsul.co.jp/>



§ 機構の活動状況

日	5月	日	6月
11	港区役所と意見交換	16	都市みらい・地下研・UIT 合同講演会（国交省都市・地域安全課）
15	東京海洋大学との意見交換	18	港区役所と意見交換（提案）
16	東京都市大学との意見交換	23	評議員会・理事会
		29	東久留米市地域産業振興協議会
		30	品川新拠点研究会：コアメンバー意見交換会

【機構関係諸団体】

《都市地下空間活用研究会》

13	大阪分科会	4	監査
18	八重洲幹事会	5	八重洲拡大幹事会
19	企画運営委員会	10	第23回評議員会、第22回総会、受託研究報告会
22	地下利活用制度検討分科会第2WG	16	都市みらい・地下研・UIT 合同講演会（国交省都市・地域安全課）

《アーバンインフラ・テクノロジー推進会議》

		2	評議員会・通常総会・定例講演会・意見交換会
		16	都市みらい・地下研・UIT 合同講演会（国交省都市・地域安全課）

《まちづくり交付金情報交流協議会》

15、22	監事監査		
29	企画運営委員会		

(財)都市みらい推進機構

住所 東京都文京区音羽2-2-2
アベニュー音羽3階
電話 03-5976-5860
FAX 03-5976-5858
Email kikaku@toshimirai.jp

ホームページもご覧下さい
<http://www.toshimirai.jp/>

当機構は、「新しい都市拠点形成等の都市活性化に関する総合的な調査・研究、情報・資料の収集等、民間の技術と経験を活かしつつ、地域社会と調和した活力ある都市づくりの推進を図ること」を目的として、昭和60年7月29日に設立された財団法人です。

- ・まちづくり交付金事業支援
- ・都市拠点開発・都市再生支援
- ・中心市街地活性化支援
- ・低・未利用地有効活用支援 他